

幼稚園・学校番号	1509413
施設名(園名等)	上ノ原幼稚園

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

年長 5 歳児 きりん組 担任(教諭名): 柴田明日香

1. 活動のテーマ

<テーマ> (タイトル)

木育 ③「ペン立てを作ろう」

テーマの設定理由

花や葉、実、種、木など、園内でさまざまな自然の素材に興味を持ち、遊びに取り入れている子どもたちの姿が見られるため、本テーマを設定した。年齢、学年に見合った体験を通して、自然物に触れる面白さ、不思議さを感じることを目的とする。木工工作や花壇づくりを通し、日常的に木や木材に触れ、園生活が自然と調和していく喜びを味わうことを目指す。子どもとともに木のいのちに触れながら園庭環境を創り上げていくことのできる余地や可能性を生かす。

2. 活動スケジュール(活動の流れ)

1. 木育ワークショップ(9月)

- ①どんな木を使用するのかなど、木の説明を聞く。
- ②土台となる丸太を、職員の方と一緒に切る。
- ③土台に付ける木材を自分で選ぶ。やすりがけ。
- ④ボンドで木材を思い思いに貼り付ける。
- ⑤ポスカで好きな模様を描く。

↓

2. 活動後から、自分のはさみやペンを入れて使用(9月~3月)

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

・活動のために準備した道具、環境の設定>

- ・木育ワークショップ活動の時間の設定
- ・木育インストラクターによる指導
- ・丸太、のこぎり、やすり、その他木材、ボンド、ポスカ

・活動中の子どもの姿・声、子ども同士や教諭との関わり 等を記載

活動前に、7月の活動（奥多摩宿泊保育でのきこり体験）以来の木育インストラクターの方々との再会を嬉しそうにし、奥多摩での楽しかった思い出を、友だちと一緒に振り返っていた。

- ・説明が始まると、奥多摩で知った木の名前や、生きている木は湿っていること、良い匂いがすることなどを木育インストラクターの説明の中で思い出している様子があった。
- ・のこぎりを使用して丸太を切る際には、思っていたよりはすぐに切れず、力を込めて何度もギコギコと刃を動かさなければならないこと、押すよりも引いた時に切れることなどを発見し、インストラクターや保育者と共有していた。
- ・土台となる丸太を切った後、その他の組み立てに必要な木材を選ぶ際には、自分が切った丸太にはどのくらいの量の木材の数・形が相応しいか、何度も組み合わせを試しながら選んでいた。
- ・木材同士を貼りつけた後は、思い思いにポスカを使って模様を描き、奥多摩の地図を描く子どもがいるなど、楽しかった奥多摩の思い出を振り返りながら友だちと一緒に描く様子があった。
- ・完成後は、自分のはさみとペンを入れて、日常の中で使用した。自分のペン立てということで、ペン立ての中に入れるハサミやペンの扱いが、これまでより丁寧になっている意識の変化が見られた。



4. 振り返り

<振り返りによって得た、教諭の気づき>

- ・夏季休暇を挟んでからの活動だったので、奥多摩宿泊保育からだいぶ期間が空いていたが、子どもたちの森や木についての記憶が鮮明だったことがとても印象的だった。それほど子どもたちにとって、日常では味わえない経験を、奥多摩保育の中でできたことを実感した。
- ・奥多摩から運ばれて時間が経っても木から匂いがしたり、湿ったりしていることに驚きを感じていたので、ワークショップをしたことにより得られた発見だと感じた。
- ・ペン立てを作ったことで、自然が生きていることを再認識し、自然の素材でも物づくりができるという楽しさを感じている様子が見て取れた。また、自分だけのペン立てが完成したことで、自然に加え、そこに関わる物や、身の周りの物も同時に大切に子どもたちの意識が育まれていると感じた。